

## タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2011 助成の概要と推薦理由

助成番号 11-2-2

---

プロジェクト名 病院と地域をつなぐー子どもが笑顔になるプレゼン  
トー

団体名 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

代表者名 岡田 泰子

所在地 千葉県

助成額 192万円

助成期間 2011年11月1日～2012年10月31日

設立年 1988年

URL <http://chiba.gekijou.org/>



入院している子どもたちは医療優先の生活をしているが、成長発達過程にある子どもとして、他の子どもと同様に情緒面への働きかけや家族・友達と触れ合うことは大切である。現場のスタッフも最大限の努力をしているが、人手不足や限られた設備の中では限界がある。そのような中でアーティストなどの病棟訪問も行われてきているが数は少なく、実施している病院にも偏りがある。また管理面等から外部の支援を受け付けていない病院もある。

本団体は、千葉県内のこどもの発達する権利を保障する生活文化環境をつくることを目指し、舞台芸術の体験提供やチャイルドラインなどの子育て支援を行っているが、5年前から千葉県下の小児病棟においてプロのパフォーマーによる上演に取り組み、また全国の子ども劇場と協力しながら、病院でアーティストの舞台を実施するためのガイドライン作成、コーディネーター育成などに取り組んでいる。

助成1年目では、5病院でプロのパフォーマーによる生の舞台を上演し、長期入院中の子どもにたくさん笑顔を届けた。さらに新たな取り組みとして、3病院で家族の気持ちをリフレッシュさせる日常型の参加ワークショップを試行し、地域の人材を活かしたプログラム開発を行うことで、今後の展開の基礎を築いた。

今回の助成では、引き続きプロのパフォーマーによる上演を行い、各病院における定着を図るとともに、対象病院を拡大する。また1年目に養成した地域コーディネーターの向上も目指す。

本プロジェクトは単発のパフォーマー派遣ではなく、継続的、かつ面的な広がりのある活動を通してシステム化と質的向上を目指しているところに特徴がある。さらに、地域のパフォーマーやコーディネーターが病院と地域をつなぐ試みに、意識して取り組もうとしている点を評価した。今後地域のNPOが地元の病院と協力して行う活動の波及が期待されるが、なによりも信頼関係が築けるかが重要であり、活動を継続・展開させる地域のコーディネーターの役割は要とも言えよう。質の高いコーディネーターの育成と地域と病院をつなぐ活動の定着を期待している。